

下関市立大学広報



海峡の英知。未来へ そして世界へ。

公立大学法人

下関市立大学

Shimonoseki City University

2013年7月1日 第70号

発行：下関市立大学広報委員会

〒751-8510 下関市大学町 2-1-1

TEL. 083-252-0288

FAX. 083-252-8099

<http://www.shimonoseki-cu.ac.jp/>

新学長就任挨拶

下関市立大学長 吉津 直樹



就任にあたって一言ご挨拶させていただきます。私は1981年4月から2012年3月までの31年間、下関市立大学で教鞭をとっていました。定年退職後、1年間大学を離れていましたが、この4月から学長として復帰しました。3年生以上の学生諸君の中には、私の講義、演習（基礎・教養）を受けた人もあるのではないかと思います。

私が赴任した当時の建物は現在まったくありません。30年余ですべて建て替わりました。大学の施設が新しく生まれ変わっただけでなく、意気盛んな若手教員が数多く入ってくるなど活気に溢れています。本学は経済の単科大学ですが、全国の国公立大学の経済学部の中でも定員数が多い大学です。学生数が多い割には、同一学部なので多くの学生同士がお互いに顔見知りだろうと思います。しかも全国各地から集まってきたので、友人を通して多くの異なった地域を知り合うということにもなるでしょう。

大学では自らが動けば得るところが多くあります。動かなければだめです。現在の皆さんはスポンジのような、すべてを吸い込む柔軟な知性と感性を持っています。やればやるほど頭の中に蓄積されていきます。大学時代にやるべきことは何かを見据え、今でしか読めない「古典」を読んで欲しいし、「世界」を歩いて欲しいのです。また、「下関」という極めて興味深い地に来たからには、すみずみまで歩き回って歴史と地理を知り、得た知識を世界にまでつなげて行って欲しいものです。

私は31年間に総数547名にのぼるゼミ卒業生を持ちました。多くの卒業生と現在でも交流していますが、大学時代の仲間のつながりは深く、何年たっても懐かしく語り合っていますし、本音で話し合える貴重な財産になっているようです。教員も面白い元気な学生を待っています。やる気を持って教員にぶつかっていけば必ず応えてくれます。大学時代に大いに勉強しつつ数多くの素晴らしい友人を作ってください。

新理事長就任挨拶

公立大学法人下関市立大学理事長 荻野 喜弘



平成25年5月1日付けで公立大学法人下関市立大学の理事長に就任いたしました。本間前理事長の下関市副市長就任に伴う人事であり、任期は前理事長の残任期であります。平成27年3月31日までとなっております。

私は本年3月末まで下関市立大学学長を務めておりましたが、理事長としては、本間前理事長の「地域に根ざした大学として下関市立大学の特色・存在価値を明確に発信し、下関市立大学の効率化と健全運営のために教職員一丸となり、日々、改善に努め、学生達とともに大学自身も成長を遂げ」る、という基本姿勢を継承しつつ、本学のいっそうの発展のために職責を果たす覚悟であります。

本学の定款によれば、「理事長は、法人を代表し、その業務を総理する」と定められています。私は理事長の職務はコンパスとマネジメントの役割だと考えています。コンパスには製図用具と羅針盤とがあります。製図用具では軸を固定することで様々な模様を描くことが可能となります。羅針盤には方向を示し進路がずれないようにする役割があります。マネジメントについては、ドラッカーは「組織に成果をあげさせるものがマネジメントである」としています。第2期中期計画（今年度を初年度とする6か年計画）こそが、コンパスの軸足であり、進路を示し、成果の基準となるものに当たります。マネジャーとしての理事長の役割は、第2期中期計画に基づき、ぶれない軸足でしっかりした方向性を示し、組織が成果をあげるようにすることだ、と考えます。

本学の使命を達成し、理事長の役割を果たすために、微力ながら全力で職務に努める所存でありますので、学生、教職員、市民をはじめとする本学に関係するすべての皆様のご理解とご協力を心よりお願いいたします。

平成25年度 第52回入学式

4月5日(金)午前10時より本学体育館にて第52回入学式が行われました。この入学式において、本学は経済学科209名、国際商学科209名、公共マネジメント学科66名、合計484名の学部新生を迎えました。また編入学生17名、特別聴講生(交換留学生)10名、科目等履修生4名、大学院6名の新生も同時に入学しました。

式の初めに吉津直樹学長から「入学式告辞」が行われました。吉津学長は最初に、大学における「自由性」の大切さに触れ、この自由を「幅広い教養を身につける」ために使うことの大切さを語りました。そして震災・原発事故、デフレ、不安定雇用、財政・金融危機、領土問題、TPPと、山積する諸課題を挙げ、これらを理解し生き抜くために「幅広い教養」「優れた本・読書」の大切さを語り、新生生の学びを励ましました。

つづいて中尾友昭下関市長から「お祝いの言葉」をいただきました。中尾市長は、本学が4年制大学移行50周年を経た今年、多くの新生を迎えたことへの喜びを語り、下関市が公立大学法人設置者として魅力ある大学づくりにこれからも努力していくと強調しました。

式では、「新生代表誓いの言葉」が経済学部代表森岡里帆さん、留学生代表曲春懐さん、大学院代表端木和経さんから述べられ、森岡さんは「未来の社会を担う一員となるために勉学に励みながら、自ら考える力を身につけ、豊かな人間性を養いたい。困難な壁にぶつかった時は仲間とともに必ず乗り越えていく。」と力強く誓いました。



経済学部代表 森岡里帆さん

新任教員挨拶

法律の知識を身につけ、経済をより深く知る

講師 久保佳納子



本年4月に商法担当教員として赴任しました、久保佳納子と申します。授業では、商法総則・商行為、会社法、手形・小切手法、金融商品取引法などの法律を教えています。

これらの法律はどれもビジネスに深く関係しており、一例をあげると、近年では日本においてもM&A(企業の合併および買収)が盛んに行わ

れるようになっていますが、こうした企業活動もまた法に則して行われています。とくに企業の組織再編は経営者、株主、債権者など多くの関係者の利害が複雑に絡み合うため、会社法に詳細な手続きや救済制度が準備されています。

法律の知識や考え方を身につければ、経済を多面的に理解し、分析できるようになるはず。美しい海峡の景色と、美味しい海の幸に恵まれた下関の地で、学生と一緒に研究に励みたいと思います。

英語に強い市大生を世界へ

准教授 高路 善章



4月より基礎・教養教育で英語を担当することになりました高路善章(こうろよしふみ)です。下関に住むようになって今年で24年目になります。その間、下関と北九州の二つの大学で教鞭をとってきましたが、大好物の魚がおいしくて風光明媚な下関が第二の故郷になりました。

専門は第二言語習得理論という領域で、特に「外国語で文章を書く」ことに関する研究をしています。グローバル社会になり人や情報が大量に行きかう中で、世界で広く使用されている英語での読み書き能力の習得は、今後ますます重要になるものと思います。私の授業では、将来世界に出て行って活躍する学生諸君にしっかりと英語力を習得してもらいます。

大学時代は最も自由で大きく成長できる時期です。学生諸君にはこの時期にたくさん本を読み、いろいろな人々と関わり合い、さまざまところへ旅してもらいたいと思います。そして精神的、物理的世界をどんどん広げてほしいです。

下関からアジアへ

准教授 橋 誠



皆さん、こんにちは。本年4月に着任いたしました橋誠です。本学では東洋史関係の講義と演習を担当いたします。専門はアジア近代史、特にモンゴル史です。

近年、若い世代の「歴史離れ」が問題となっております。これは、歴史は単なる暗記科目であるとの思い込みが原因の一つになっていると思

います。確かに、歴史の大きな流れを理解するために基本的な歴史事象は「暗記」している必要があります。また、「我々が歴史から学んだことは、我々が歴史から何も学ばないということだ」という悲観的なことを言った人もいますが、これは歴史を学ばなくていいということを決して意味しません。God cannot alter the past, though historians can(神は過去を変えることができないが、歴史家にはできる)という言葉が示すように、歴史の解釈は多様であり、非常に好奇心をそそられるものであります。

アジアの玄関口である下関にある本学は、すでに韓国や中国、台湾との交流を積極的に進めておりますが、今後はもう少し足を延ばし、私の専門でもある内モンゴル、さらにはモンゴル国とも良い関係を構築できればと思っております。どうぞよろしく願いいたします。

海峡の風と自主性を重んじる学風と

教授 萩原 久美子



門司から唐戸へ。夏の空に誘われて初めて渡った関門海峡は青く、光にあふれていたのを覚えています。その海峡を臨む大学で、この春から新たなスタートを切ることになりました。担当は人事労務管理論や経営学ですが、広く雇用、労働のありかたを議論しながら、持続可能な地域圏の実現を学生の皆さんと一緒に考えたいと思っています。

えたいと思っています。

90年代以降、グローバル化の展開とともに進んだ東京一極集中と地域産業の空洞化。そこにあって求められるのは雇用・生活保障の維持だけでなく、「ローカルな社会ならではの」労働のオルタナティブと新たな構想の発信です。その課題に取り組む将来のリーダーの養成にかかわれることをたいへん光栄に思います。自主性を重んじる学風から、どんなエネルギーが生みだされるのか。とても楽しみです。どうぞよろしく願いいたします。

故郷に近い下関市立大学での抱負

教授 村田 和博



平成25年4月に赴任しました村田和博と申します。山口県阿知須町（現山口市）で生まれ、高校卒業まで阿知須で育ちました。他界した父は阿知須で漁師をしており、瀬戸内海を通る船の汽笛が聞こえる場所に住んでいました。下関市立大学への赴任により故郷に帰ることができましたことを心より感謝しております。

下関市立大学に赴任したからには、微力ではございますが、下関市の発展に貢献したい所存でございます。

教育について、一言述べさせていただきたいと思います。少子化と個性化の社会となり、多様な学生がキャンパスに集うようになりました。学生と接する機会や会話する機会を多く持ち、多様な学生に対応できるよう努めたい所存です。また、3, 4年生のゼミ生に対しては、就職支援にも力を注ぎたいと考えています。

赴任して間もないため行き届かないことが多いかと思いますが、その都度、ご鞭撻いただければ幸いです。

着任にあたっての抱負

准教授 柳 純



本年4月より国際商学科に着任しました柳と申します。全国的に有名なこの下関で教鞭をとることになり、改めて身が引き締まる思いです。本学では初年次の「商学総論」、3年次以降の専門科目「マーケティング論」、「国際マーケティング論」、「流通政策」を担当させていただきます。

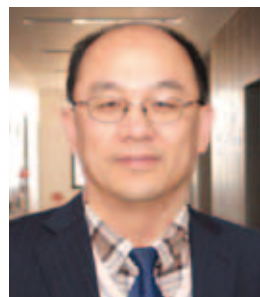
最近取り組んでいる研究は、海外出店している日本の小売業研究ですが、とりわけ、アジアにおける日系小売企業の出店プロセスや市場適応行動研究ということになります。海外を訪れる時は常に日本のお店を探しています。

さて、昨今の18歳人口の減少にともなう大学間競争では、優秀な学生の獲得、施設・設備等の充実、研究レベルの高度化などが

求められています。また今後は、様々な側面からの地域貢献、優秀な人材の輩出、人的交流の活性化等も大学が積極的に担っていくこととなります。このような状況下で、新任地では歴史、風土、そして海産物等を堪能しながら、少しでも貢献できればと考えています。今後とも、何卒よろしく願い申し上げます。

中国語を学習して、未来を広げよう

特任教員 王 暉



私は中国の青島大学から派遣されました王暉と申します。今年4月から来年3月まで、下関市立大学において一年間在籍する予定です。

青島大学と下関市立大学は友好姉妹校であり、両校にはすでに20年以上の友好交流の歴史があります。私はこのたび、風光明媚な下関にある下関市立大学において教鞭を取る

ことになり、とても光栄に感じております。私は今回が初めての来日となります。日本に来る前は、日本は高度な文明を持つ先進国であると聞いておりましたが、実際日本に来てみると、全くのその通りで、すでに非常に深い印象を抱いております。異国での生活は私にとって、魅力に満ち溢れたものであり、この一年間は、日本文化を十分に体験したいと考えております。

私の専門は中国語教育と現代中国語ですが、特に中国語文法、語彙、異文化コミュニケーションに興味を持っております。これまで、中国語研究と教育に関する論文を20本近く執筆いたしました。中国語教育に従事してからすでに、20年余りになりますが、これまで総合中国語、会話、リスニング、講読、作文、現代中国語教育法、異文化コミュニケーション、当代中国研究などの授業を担当しました。また青島大学では、学部生と大学院生を指導しており、現在は7名の中国語国際教育修士課程の院生に対する指導もしております。

中国語は大変難しいと考えている人が多いようです。しかし、私は日本人の学習者にとって中国語は決して難しくはないと思います。なぜなら、日本人の漢字に対する能力は非常に高く、これは他国の中国語学習者と比べても、群を抜いています。学習意欲の継続と時間を割くことを惜しまなければ、誰もが中国語をマスターできると言えます。

中国語；もう一つの人生を

特任教員 徐 剛



私は北京大学の中国語文学部から派遣されました徐剛と申します。このたび下関市立大学の一年任期の特任教員として、主に中国語の授業を担当することになりました。

私の研究分野は中国古代の言語、文字及び思想です。この一年、日本に滞在することにより、日本語や日本の歴史、文化を学ぶことができ嬉しく思っておりますが、これは私自身が中国の言語や思想に対する理解をより深めることにつながるものと考えております。より多くの下関市立大学の学生が私の授業を履修し、その過程での相互理解が、私自身一番強く望んでいることです。

外国語を学習し、また異文化を理解することは、人生における多種多様な可能性を実際に導き出すことであると言えます。学生の皆様、是非、私と一緒に学習を通じて、人生のもう一方の側面を享受して見ませんか。

退任挨拶

退任挨拶

前理事長 本間 俊男

私ことこのたび縁あって再び下関市に奉職することとなり、平成25年4月30日付で公立大学法人下関市立大学理事長を退任いたしました。

任期半ばでの退任となりましたが、理事長在任中は教職員の皆様をはじめ、関係各位には大学運営に関し種々ご協力をいただき感謝いたしております。

就任期間は短いものでありましたが、この間、新学科である公共マネジメント学科のスタート、新管理研究棟である本館I棟・本館II棟の完成をはじめキャンパス整備の進捗、さらには下関市立大学が四年制の大学となってから50周年としての様々な記念行事の開催と、大学としての節目の時期に貴重な体験をさせていただいた2年余でもありました。

また、在任中は下関市立大学が平成19年4月に地方独立行政法人法による公立大学法人として再出発し、第1期中期目標・中期計画期間から第2期中期目標・中期計画期間への過渡期にも当たり、大学改革に向けて全学を挙げて努力している時期とも重なりました。下関市の設置している法人評価委員会からは、教職員の不断の努力により、この間順調に大学改革は進んでいるとの評価もいただきましたが、今後は新理事長、新学長のリーダーシップのもとさらに改革のスピードを速め、ますます厳しくなるであろう大学間競争に打勝ち、我国にとって東アジアへの玄関口ともなる本州最西端のこの地から有為の人材を社会に送り出し、「下関市立大学」の名を天下に大いに示していただきたいと願っているところであります。

何れともあれ、皆様本当にお世話になりました。今は皆様とのご縁が新たな私の財産となりました。皆様の今後益々のご活躍と、下関市立大学の発展を祈念申し上げ、退任挨拶とさせていただきます。フレー！フレー！市大！



本学での思い出

私が福岡の私立大学から赴任して20年になる。もともと出身は国立大学、そして私立大学に16年間勤務し、本学（公立大学）に来たのである。ということで、国立と私立、市立と違うタイプの大学を経験し、実にいい人生経験になった。本学に来てびっくりしたのは研究室が古かったこと。本棚はあったものの棚は落ちて下に支えが必要な状態。ここに来る前の私立大学は研究棟が完成したばかりで、新棟を横目に見ながら、入れないままにこちらに来たのである。しかし、本学でも最近新棟が完成し、短期間ではあったが、実に快適な研究室を与えられて感謝であった。

本学に来ていろんな試みをした。一つはゼミの展示会。私がアンネの日記に興味を持っていたこともあり、この関係のものやゼミでしていることを展示し続けて10数年。ところが、数年前に入院したりして体力がなくなり、最後まで続けられなかったのはとても残念である。また、最初は関心はなかったものの高校の出前授業や市民講座にも興味がわき、随分いろんな高校に行ったり、社会人の方々とお交わりの機会が与えられた。私のいい思い出になってこ



平池 久義

れも感謝である。また大学院では毎年のように私の研究室に院生が入って来て楽しく指導も出来たことは感謝である（18人）。まだまだ多くあるが紙面もなくなった。本学の更なる発展を祈っています。

再度、桜が満開の季節を迎えるにあたり 趙 娜

桜が満開になる季節がやってきましたが、私は皆様方に「さようなら」を言わなければなりません。2012年の春、ちょうど桜が満開の頃、私は日本にやってきました。下関市立大学の方々のご心もったおもてなしをお受けし、順調に仕事を始めることができました。

私は全て中国語で授業を行ったため、私の授業を受講してくれた学生さんが授業に慣れ、また私と親しくなるまでに少し時間がかかってしまいました。ただ、学生さんは私の授業を通じて徐々に面白く、有意義な中国語の学習をすることができるようになったと思っています。授業中、私が話す本場の中国語が聞き取れた時の学生さんの感激と自信に満ち溢れた表情は、私のような中国語教師にとって、まさに教師冥利に尽きるものでした。

私は中国語の授業を通して、日中相互理解の懸け橋になることができたいと思っています。この一年間、日本に滞在し、日本の友人と交流することにより、数千年の間一衣帯水の隣国である日本に対する多方面における理解を得ることができました。私は帰国後、このたびの経験を生かし、新しい視野で日本の様々なことを中国の人々に紹介していきたいと考えています。中国語の学習に興味があり、また中国が好きの方は、今後、是非自ら中国を訪れてみてください。きっと新しい発見があると思います。



“臨別寄语”

楊 鏞

中国の先哲の孔子は、かつて時間を水の流りに比喻しました。私が下関市立大学に在籍したこの一年はあっという間に過ぎ去ってしまいました。一年前、私はちょうど桜が満開の頃、中国北京大学からの派遣教員として、自然に恵まれたこの下関にやってきました。あれから一年が経った今、桜の花がまた咲き始めているのが見られます。下関市立大学の職場環境はすばらしく、また本学の教職員の方々や学生諸君の深い友情を感じることができました。下関市立大学における様々な経験や印象は、深く私の心に刻まれております。

このたび退任するにあたり、まず私の授業に熱心に取り組んでくれた学生諸君に感謝と敬意を表したいと思います。また本学准教授の浅野雅樹先生には数多くの御助力を賜り、心から感謝申し上げます。日中両国の文化、教育面での交流が今後ますます深まり、充実したものになると信じております。最後になりましたが、下関市立大学の教育と研究事業の更なる御発展をお祈り申し上げます。



退任教員紹介

熊谷 美佐子（平成8年4月1日～平成25年3月）

17年間にわたり本学の英語教育にご尽力をいただきました。心より感謝するとともに、今後のご活躍をお祈りいたします。

平成24年度 第48回卒業式

平成25年3月25日(月)、第48回卒業式が体育館メインアリーナで開催されました。卒業生は経済学科259名、国際商学科244名、合計503名(内留学生9名)、大学院生2名でした。本年度は、本学が1962年に四年制大学として発足して50年目という節目の年にあたり、記念講演会・シンポジウム・クラブ交流会・記念植樹など、様々なイベントにあけた1年でもありました。荻野学長は「告辞」で、卒業生の皆さんが過ごした4年間は、デフレ下の円高やあいつぐ政権交代の時期にあたり、それもようやく落ち着きを見せ始めたとはいえ、その船出は先の読みにくい時代状況であると分析されました。しかしその中で、「高い志」を持ち、「絆」を大切にしつつ、自らの可能性を信じて困難に立ち向かえば、必ず道は開かれると激励されました。終了後は市内のグランドホテルで卒業生や教員が参加してにぎやかに祝賀会が開催されました。



特待生表彰式

5月17日(金)、本館Ⅱ棟5階中会議室において、平成25年度特待生の表彰式が行われました。

下関市立大学では、規程に定められた修得単位数を取得し、かつ学部学科での成績が上位2位以内であった学生を特待生として認定し、授業料半額免除の適用や図書購入など修学のための費用に充てることができる奨学金を支給しています。今年度は2、3年生各5名、4年生4名、留学生2名の計16名が特待生として認定されました。

初めて認定された学生は、「一年間頑張った結果、特待生として認定され非常に嬉しい。親孝行ができた。」「市大での学生生活の中で、将来の道をしっかり考えていきたい。」など、喜びや今後の抱負を語ってくれました。



エコキャンパス活動

エコキャンパス推進委員会では、毎年この時期に、緑のカーテンの育成を目指して、ゴーヤを植えています。今年は5月23日(木)に実施し、学生と教職員の合計約40名が携わりました。最初にエコキャンパス委員長の菅准教授より、植え付け作業の手順の説明がありました。その後2班に分かれ、1班は、ゴーヤが成長するにしたがって支えとなるネットの組み立てをし、もう1班は、土づくりを行いました。昨年使用した土と今年購入した土、肥料等を混ぜ合わせ、プランター44個に土を入れました。その後、主に学生の手によって、ゴーヤの苗が植えられました。初夏の日差しを浴びて、すくすく成長するゴーヤの姿が、涼しさを感じさせてくれます。



オーストラリアでの在外研修を終えて

准教授 佐藤 隆

オーストラリアのANU(オーストラリア国立大学)に1年間在外研究に行ってきたが、共創サロンにおいて「オーストラリアの多文化主義政策-オーストラリアでの在外研修を終えて-」と題してその帰国報告会を行った。

講演の内容は3部構成で、(1)オーストラリアの紹介(観光案内)(2)オーストラリアの概要(国土面積、人口、自然環境と気候、GDP、産業など)(3)オーストラリアの多文化政策について報告を行った。オーストラリアの紹介のところでは写真をふんだんに使って観光案内を行ったが、特にエアーズロック(ウルル)では10年程前に「世界の中心で愛を叫ぶ」で有名になったドラマ・映画のロケ地ということもあって、紹介には力を入れた(私もそこで大声で愛を叫んだと報告をした)。

さらに、オーストラリアの多文化政策については多くの質問が出て活発な議論となったが、オーストラリア人のサリバン講師から、「オーストラリアでは決して出身地を尋ねたりしてはいけない」と言われて唖然となってしまった。オーストラリアは多文化主義とともに国家としての統一やアイデンティティの問題に揺らいでいるように感じた。



2013年度地域共創研究報告会

准教授 浅野 雅樹

本研究は2012年度下関市立大学地域共創センター共同研究として、「下関市民の外国語学習の現状と課題について -三つの言語(英・中・韓)を中心に-」というテーマで行われたものです。本報告会では、市報等を用いた市民向け外国語教育の現状に関する調査結果と、市民を対象に行ったアンケート結果を重点的に述べさせていただきました。また、今後市民講座等、一般市民向けの講座を開講する場合の担当教員側にとつての注意点や効果的な教授法などについて、英語(クリステンサリバン講師担当)・中国語(浅野雅樹担当)・韓国語(呉香善特任教員担当)の三つの言語に分けて考察を行いました。報告会は夕刻の時間帯でしたが、多くの教職員や学生の皆様に参加いただき、また報告に対する貴重なご意見も賜ることができました。本報告会のためにご尽力くださった関係者の方々に深く感謝の意を表したいと思います。



2013年度入学者選抜実施状況

学科	入試		定員	志願者	受験者	合格者	実質倍率	追加合格者	入学者
経済学科	推薦入学	全国	27	82	82	27	3.0	-	27
		地域	A	29	39	39	29	1.3	-
	B								
	一般選抜	前期	52	267	247	73	3.4	-	65
		中期	83	1698	965	326	3.0	10	79
	帰国子女		2	0	-	-	-	-	-
	社会人		2	0	-	-	-	-	-
	中国引揚		若干名	0	-	-	-	-	-
	留学生		若干名	17	17	10	1.7	-	9
	編入学		8	23	19	8	2.4	-	7
国際商学科	推薦入学	全国	27	41	41	29	1.4	-	29
		地域	A	29	33	33	29	1.1	-
	B								
	一般選抜	前期	52	238	223	80	2.8	-	57
		中期	83	1391	721	284	2.5	8	85
	帰国子女		2	0	-	-	-	-	-
	社会人		2	1	1	0	-	-	0
	中国引揚		若干名	0	-	-	-	-	-
	留学生		若干名	26	25	12	2.1	-	9
	編入学		8	29	26	12	2.2	-	8
公共マネジメント学科	推薦入学	全国	7	21	21	8	2.6	-	8
		地域	B	8	10	10	8	1.3	-
	一般選抜	前期	16	79	75	25	3.0	-	18
		中期	27	349	185	95	1.9	-	32
	帰国子女		1	0	-	-	-	-	-
	社会人		1	0	-	-	-	-	-
	中国引揚		若干名	0	-	-	-	-	-
	留学生		若干名	2	2	0	-	-	0
	編入学		4	9	7	2	3.5	-	2

※推薦入学の合格者数には第2志望学科合格者を含みます。

2013年度合格者出身校

北海道	苫小牧東
宮城	石巻
茨城	日立北、茨城キリスト教学園
千葉	薬園台
富山	高岡西、氷見
石川	飯田
福井	羽水、三国、勝山、敦賀、武生東
岐阜	鶯谷、美濃加茂
静岡	沼津東、沼津城北、富士、静岡城北、静岡東、焼津中央、島田、加藤学園暁秀、静岡北、磐田東、浜松日体
愛知	春日井、横須賀、安城、西尾東、豊橋南、東海南、西春、豊田北、豊田南、岡崎西、常滑
三重	いなべ総合学園、津東、松阪工業、上野、鈴鹿、三重
滋賀	東大津、八幡、光泉
京都	亀岡、西京、洛西、菟道、南陽、城南菱創、花園、東山、京都橘、京都産業大学附属、福知山成美、京都成章
大阪	狭山、追手門学院大手前、履正社、興國、金光大阪、浪速、高槻、近畿大学附属、常翔啓光学園、清教学園、大阪青凌、初芝富田林
兵庫	星陵、鳴尾、柏原、小野、西脇、三木、姫路東、姫路西、龍野、八鹿、相生、東播磨、葦合、摩耶兵庫、加古川北、網干、宝塚北、姫路飾西、三田祥雲館、滝川、東洋大学附属姫路、近畿大学附属豊岡
奈良	生駒、奈良育英、帝塚山
和歌山	橋本、粉河、向陽、星林、耐久、日高、田辺、開智、和歌山信愛女子短期大学附属、近畿大学附属和歌山、初芝橋本
鳥取	鳥取東、鳥取西、八頭、倉吉東、倉吉西、米子東、境、米子北
島根	安来、松江北、松江南、三刀屋、出雲、大社、大田、浜田、津和野、隠岐、松江東、開星、出雲北陵
岡山	岡山操山、岡山大安寺、岡山芳泉、岡山東商業、倉敷青陵、倉敷天城、倉敷南、津山、玉野、玉島(県立)、笠岡、西大寺、井原、高梁、新見、瀬戸、矢掛、勝山、林野、岡山一宮、倉敷古城池、総社南、岡山城東、就実、明誠学院、岡山学芸館、興譲館
広島	広島国泰寺、海田、廿日市、賀茂、安古市、広、呉三津田、尾道東、尾道北、三原、西羅、福山誠之館、福山葦陽、府中、油木、大門、福山明玉台、庄原格致、三次、舟入、呉、福山、高陽、広島井口、安芸府中、神辺旭、祇園北、安佐北、安芸南、美鈴が丘、広島、崇徳、安田女子、比治山女子、広島国際学院、広島工業大学、呉港、盈進、銀河学院、如水館

山口	岩国、柳井、光、徳山、防府、防府商業、山口、山口中央、宇部、宇部商業、小野田、厚狭、美祢、田部、西市、豊浦、長府、下関西、下関南、下関工業、豊北、萩、下関商業、響、西京、下関中等教育、野田学園、宇部鴻城、慶進、梅光学院、早朝、下関短期大学付属、立修館高等専修学校
徳島	城東、城南、城北、富岡東、富岡西、阿波西、阿波、脇町、徳島市立、城ノ内、徳島北
香川	三本松、坂出、丸亀、丸亀城西、善通寺第一、観音寺第一、高松第一、高松西、香川中央、三木、香川県大手前高松、坂出第一、香川県大手前、香川誠陵
愛媛	愛媛大学附属、川之江、西条、丹原、今治西、今治北、松山東、松山南、松山北、松山商業、大洲、八幡浜、宇和島東、伊予、松山中央、松山西中等教育、今治明德、済美、帝京富士
高知	高知追手前、高知小津、中村、土佐
福岡	京都、小倉南、小倉商業、小倉、小倉西、北九州、戸崎、八幡、八幡中央、八幡南、宗像、新宮、香椎、福岡中央、城南、筑紫中央、筑紫、糸島、久留米、三瀧、伝習館、山門、八女、福岡、朝倉、田川、東郷、嘉徳、鞍手、北九州市立、北筑、春日、小倉東、中間、光陵、筑前、香住丘、博多青松、青豊、門司大翔館、門司学園、常磐、東筑紫学園、九州国際大学付属、近畿大学附属福岡、福岡大学附属若葉、精華女子、筑紫大、中村学園女子、九州産業大学付属九州産業、福岡工業大学附属城東、福岡舞鶴、大牟田、八女学院、自由ヶ丘
佐賀	佐賀西、唐津東、唐津西、伊万里、小城、武雄、鹿島、鳥栖、三養基、神埼、龍谷、東明館
長崎	長崎東、長崎南、長崎北、佐世保南、佐世保北、佐世保西、大村、諫早、口加、川棚、五島、杵崎、長崎北陽台、長崎南山、長崎日本大学
熊本	第二、鹿本、宇土、八代、水保、必由館、熊本北、東稜、文徳、専修大学玉名
大分	高田、杵築、別府鶴見丘、大分舞鶴、大分雄城台、大分西、臼杵、佐伯鶴城、森、日田、中津南、中津北、大分南、大分豊府、宇佐、大分東明、岩田
宮崎	延岡、日向、宮崎大宮、宮崎南、宮崎西、日南、都城泉ヶ丘、都城西、小林、宮崎北、宮崎第一
鹿児島	鹿児島中央、加世田、伊集院、川内、出水、大口、加治木、鹿屋、鹿児島玉龍、松陽、武岡台、樟南、鹿児島、鹿児島第一
沖縄	浦添

●公共マネジメント学科の新入生合宿が行われました

公共マネジメント学科1年生(66人)を対象に、4月7日(日)から1泊2日の新入生研修が行われました。7日午前9時、大学の体育館に集合して、自己紹介の後、大型バス2台に分乗して、「下関市立青年の家」に向かいました。

今回の研修には、1年生のほか3年生10人、2年生7人も参加し、自己紹介やレクリエーションなどオリエンテーションの一部を自主的な企画で取り仕切るなど、随所に頼もしい先輩ぶりを発揮していました。また、教員主催の研修企画は、「災害廃棄物(がれき)の広域処理の受入問題」というテーマで討論を行いました。

初日の夜は、教職員や上級生と交流会を行い、シラバスなどの相談を受け付けました。今回の研修で、上級生はリーダーシップを発揮する機会が与えられ、1年生は大学の仲間づくりのきっかけになったことと思われます。

翌朝、朝の集いや清掃後、大学に戻り、研修を無事に終えることができました。



●留学生歓迎会を開催して

国際交流会ともだち副部长 経済学科3年 中村 友哉

4月26日(金)新入留学生歓迎会を開催しました。本学の学生・教職員だけでなく、学外からも留学生を支援して下さっている方々にたくさんご参加いただきました。歓迎会は吉津学長の挨拶で始まり、新入留学生にインタビュー形式で質問をするかたちで1人ずつ挨拶がありました。そして、参加者全員で名刺交換会を行い、新入留学生との距離をぐんと縮めることができました。合気道部による演武もあり、賑やかで楽しい歓迎会となりました。

私たち国際交流会ともだちは、新入留学生の皆さんの学習をサポートすることはもちろん、良い思い出を創ってもらうための様々なイベントの企画・運営を通して、私たち自身も国際意識を高めていきたいと思っています。



●「酒造りから学ぼう日本文化!!」の講師を務めて

下関酒造株式会社 代表取締役 内田 忠臣

下関市立大学の学生達を当社の酒蔵見学に受入れ始めて今年で6年目を迎えました。今年度は、日本酒の歴史、日本酒から発展した食器、料理、日本酒のたしなみ方、テーブルマナーそして下関酒造の企業戦略などの内容を4回のシリーズに分けて講義をする依頼を受けました。

5月18日(土)に第1回目を開催し、和やかな雰囲気の中で「関娘大吟醸」「若き獅子の酒」そして「関娘復刻版」を試飲し好みの酒を探してもらいました。学生達は、酒の種類にあった器の選び方や食事のマナーに関する話なども真剣に耳を傾けてくれました。4回すべてに参加した学生には日本酒マイスターの認定証を発

行する予定です。

陽明学では「知行合一」と言い、実践することで知識は身につくと説いています。この講座で学んだ日本の食文化を普段の生活に生かし、日本の粋を楽しく身につけてほしいと願っています。



●留学生と留学生チューターの下関探検ツアーを毎年実施しています!!

晴天に恵まれた4月14日(日)に実施した下関探検ツアーは、下関に来たばかりの新入留学生に下関市を知ってもらうこと、先輩留学生や日本人学生と交流を深めてもらうことを目的にしています。

今年は徒歩で大学を出発し、電車と路線バスを利用して城下町長府に在る下関市立美術館に行きました。美術館では、学芸員のお話を伺った後「下関ゆかりの日本画家たち」と「下関書道連盟展」を鑑賞しました。留学生チューターは、事前に下関の交通事情や歴史、美術館の展示物について調べ、新入留学生に伝えながら交流を深めました。

この探検ツアーをきっかけに新入留学生が「下関」という街に興味を持ち、今後様々な日本を知るイベントに参加し、卒業時には下関市立大学から世界に羽ばたく下関親善大使に成長してもらいたいと思います。



●キャリア合宿に参加して

国際商学科3年 合田 健介

今回の合宿を通して、社会生活において様々な能力が存在し、各々違う能力を持っていること、また自己の興味、関心の再認識を行うことができた。内容も大変充実しており、キャリアビジョンの設定や、チームビルディングを目的とした活動など、良い意味で暇のない時間を過ごすことができ、大変有意義な合宿であった。そのような合宿の中で最も印象に残った活動は、プロジェクトアドベンチャー活動であった。ゲームを通して、実際に目標を設定して達成することの難しさを知り、全員で協力して、いかに効率よくできるのか考え、正解が分かった時に驚くという内容ばかりで非常に楽しみながら活動することができた。自分が気づいていない視点から物事を見ること、それを単純なゲームから知ることができるということが自分にとって、とても印象的であった。このキャリア合宿で、学んだことをこれからも自分の学生生活に生かし、これからの将来の自分の生きる糧のひとつとして応用していきたい。



海峡を行き交う街、下関マップ

教授 木村 健二

下関には、各時代を通じて歴史的あるいは文化的遺産がたいへん多いのですが、それらを簡潔かつ系統的にまとめたガイドマップは、これまで必ずしも出されてはいませんでした。また、下関市立大学の学生の出身地は下関市外が85%を占め、下関の歴史的文化的遺産に触れないまま卒業してしまうのはもったいないということから、大学の特定奨励研究費を活用してマップの作成に取りかかりました。

取り上げた場所・項目としては、源平合戦の舞台である壇ノ浦や平氏を弔う赤間神宮、日清講和会議が開かれた春帆楼と講和記念館などのほかに、九州や朝鮮半島との交通網の展開、水産都市としての相貌、三菱や三井、そして旧鈴木商店など財閥系企業の進出などがあります。また、すでに取り壊されてしまった大洋漁業（現マルハ）本社や旧下関駅とその前にあった山陽ホテル、山陽百貨店、来住朝鮮人の融和施設であった昭和館などの建物についても取り上げています。

このマップを、基礎演習や教養演習、学外実習などの時間に、大いに活用していただければ幸いです。



行事記録 (平成25年3月～6月)

- 3月5日 卒業生掲示・成績配付
- 6日 一般選抜 (前期日程) 合格発表
- 8日 一般選抜 (中期日程)
- 16日 大学院選抜 (2次)
- 21日 一般選抜 (中期日程)・大学院 (2次) 合格発表
- 25日 卒業式
- 4月4日 新入生プレイズメントテスト
新入留学生オリエンテーション
在学生オリエンテーション
- 5日 入学式
大学院新入生オリエンテーション
- 7日 公共マネジメント新入生合宿 (～8日)
- 8日 新入生オリエンテーション (～9日)
- 9日 新入留学生オリエンテーション (環境みらい館見学)
- 10日 春学期授業開始 (履修登録開始)
- 11日 大学院経済学総論 (～17日)
- 14日 新入留学生・留学生チューター市内見学
- 26日 留学生歓迎会
- 5月10日 リーダーシップトレーニング
- 17日 特待生表彰式
- 18日 第1回酒造りから学ぼう日本文化!!
- 29日 第1回共創サロン
- 30日 地域共創研究報告会
- 6月1日 開学記念日
- 2日 下関未来大学開講
- 21日 学内入試説明会

平成25年度予算

(単位:百万円)

区分		金額
収入	運営費交付金	208
	授業料等	1,004
	入学金	124
	入学検定料等	55
	事業収入等	31
	寄附金	3
	受託事業	3
	国補助金	11
計		1,439
支出	一般管理費	183
	人件費	1,038
	教育経費	131
	研究経費	39
	教育支援経費 (図書館)	37
	受託事業費	1
	補助金	10
	計	1,439

未来の自分を発見。 **FIND!**

下関市立大学 オープンキャンパス2013

7/20(土) 8/4(日) 9/28(土)

10:00～ (受付9:30～)

**参加者全員にオリジナルグッズプレゼント!!
無料ランチ券配布**

【全体説明】

- 大学概要: 本学の特色などを紹介します。
- 入試説明: 今年度の入試の概況、来年度入試の概要を説明します。
- 就職状況: 就職状況やサポート体制を解説します。

【模擬講義】

本学の教員が、高校生の皆さんに分かりやすく日頃の授業を講義します。

【個別相談】

個別ブースでは、入試や大学生活、就職など、あなたの様々な疑問にわかりやすくお答えします。

【語学体験】

初歩的な会話レッスンや海外の研修先の紹介などを行います。

【市大生と語ろう】

大学の授業やサークル活動、普段の生活スタイルのことなど、在学生の生の声が聞けます。

【学内施設ツアー】

在学生とおしゃべりをしながら、学内を散策しましょう。

【学生食堂】無料ランチ

学生食堂で普段学生が食べている、人気メニューが味わえます。

【図書館ツアー】

日頃は目にする事のない閉架書庫にもご案内します。



無料送迎バス運行 (7, 8月のみ)

最寄駅 (JR幡生駅・新下関駅) に専用バスがお出迎えします。
・JR幡生 (はたぶ) 駅 <9:15> <9:45> ※大学まで徒歩20分
・JR新下関駅 (新幹線口) <9:15> <9:45>

※9月28日はプログラムの内容が少し異なります。詳細はHPをご覧ください。